

二〇二五年七月一日

遠雷に急かされ上がる仕舞ひ風呂
星涼し亡き人の句に想ひ馳せ
飛石に石臼もあり庭涼し

康子
勉聖
むべ

二〇二五年七月二〇日

初蟬や木々のさやぎの間遠より

なつき

二〇二五年七月九日

登校路見守り隊めく立葵
参道の緑陰に笑むえびす像

むべ
康子

二〇二五年七月八日

舌巻いて風鈴機嫌悪きかな
冷房の効きすぎてカフェ寛げず

むべ
澄子

二〇二五年七月七日

星の竹飾り園児ら合唱す
睦み蝶二重らせんに舞ひにけり

きよえ
むべ

二〇二五年七月六日

苔浄土なる一門の墓所
磴のぼるほどに高鳴る蟬時雨
巢立ちの日旋回つづく親燕

康子
博充
あひる

二〇二五年七月五日

老いてなほ願ふことあり星祭り
天窓を白変したる稲光
堂縁の足裏にのこる梅雨湿り
老鶯のしばなく山の朝かな
ハルニレの洩れ日涼しき大路かな
広池の余白なく満つ蓮浄土

こすもす
むべ
澄子
山椒
明日香
澄子

毎日句会みのる選・二〇二五年七月一三日